

國家機密

帝國國策遂行要領

昭和十六年十一月一日
大本營政府連絡會議決定

決定

一、帝國ハ現下ノ危局ヲ打開シテ自存自衛ヲ完ウシ大東亞ノ新秩序ヲ建設

スル爲此ノ際對米英蘭戰爭ヲ決意シ左記措置ヲ採ル

(一) 武力發動ノ時機ヲ十二月初頭ト定メ陸海軍ハ作戰準備ヲ完整ス

(二) 對米交渉ハ別紙要領ニ依リ之ヲ行フ

(三) 獨伊トノ提携強化ヲ圖ル

(四) 武力發動ノ直前泰ト夕間ニ軍事的緊密關係ヲ樹立ス

三對米交渉。カ十二月一日午前零時迄ニ成功セハ武力發動ヲ中止ス

0401

別紙

對米交渉要領

對米交渉ハ從來懸案トナレル重要事項ノ表現方式ヲ緩和修正スル別記甲

案或ハ別記乙案ノ如キ局地的緩和案ヲ以テ交渉ニ臨ミ之カ妥結ヲ計ルモ

ノトス

80

0402

日米交渉懸案中最重要ナル事項ハ(一)支那及佛印ニ於ケル駐兵及撤兵問題

(二)支那ニ於ケル通商無差別問題(三)三國條約ノ解釋及履行問題及(四)四原則

問題ナル處之等諸項ニ付テハ左記ノ程度ニ之ヲ緩和ス

記

(一)支那ニ於ケル駐兵及撤兵問題

本件ニ付テハ米國側ハ駐兵ノ理由ハ暫ク之ヲ列下シ(1)不確定期間ノ駐

兵ヲ重親シ(四)平和解決條約中ニ見テ他全無シムルコトニ異議ヲ有シ

(ハ)撤兵ニ關シ更ニ明確ナル意思表示ヲ要望シ届ルニ儘ミ次ノ諮察程度

ニ緩和ス

日支事變ノ爲支那特派道中ヲシテ日本國軍隊ハ北支及蒙疆ヲ一定

地域及海南島ニ關シ受ヘ日支間平和成立後所要期間駐屯スヘク爾餘

ノ軍隊ハ平和成立ト同時ニ日支間ニ別無定メラルル所ニ從ヒ撤去ス

開始シ二年以内ニ之ヲ完了スヘシ

(註)

所要期間ニ付衆側ヨリ質問アリタル場合ハ概ネ二十五年ヲ

目途トスルモノナル旨ヲ以テ應酬スルモノナリ

(二) 佛印ニ於ケル駐兵及據兵

本件ニ付テハ米朝ハ日本ハ佛印ニ對シ領土の野心ヲ有シ且新據地方ニ

對スル武力進出ノ基地タラシメントスルモノナリトハ危惧ノ念ヲ有ス

ト認メラルルヲ以テ米朝ノ案經度ニ對シテ

日本國政府ハ佛領印度支那ノ領土主權ヲ尊重スルヲ以テ佛領印度支那

ニ派遣セラレ居ル日本國軍隊ハ支那事變ニシテ解決スルカ又ハ公正

ナル極東平和ノ確立スルニ於テハ直ニ之ヲ撤去スヘシ

(三)支那ニ於ケル通商無差別待遇問題

本件ニ付テハ既提出ノ九月二十五日案ニテ到底妥協ノ見込無キ場合ニ

ハ次ノ案ヲ以テ對處スルモノトス

日本國政府ハ無差別原則カ全世界ニ適用セララルモノナルコト於テハ本

平洋亞地域即支那ニ於テモ本原則ノ行ハルルコトヲ承認ス

0406

(四) 三國條約ノ解釋及履行問題

本件ニ付テハ我方トシテハ自衛權ノ解釋ヲ濫ニ擴大スル意圖ナキコト

ヲ更ニ明瞭ニスルト共ニ三國條約ノ解釋及履行ニ關シテハ我方ハ從來

屢々説明セル如ク日本國政府ノ自ラ決定スル所ニ依リテ行動スル次第

ニシテ此點ハ既ニ米國側ノ了承ヲ得タルモノナリト思考スル旨ヲ以テ

應酬ス

(五) 米側ノ所謂四原則ニ付テハ之ヲ日米間ノ正式妥結事項ニ了解案タルト

又ハ其他ノ聲明タルトイハレハス。中ニ包含セシムルコトハ極力回避ス。

0408

乙 案

一、日米兩國ハ孰レモ佛印以外ノ南東亞細亞及南太平洋地域ニ武力的進出ヲ行ハサルコトヲ約スヘシ

二、日米兩國政府ハ蘭領印度ニ於テ其ノ必要トスル物資ノ獲得力保障セラ
ルル様相互ニ協力スヘシ

三、日米兩國政府ハ相互ニ通商關係ヲ資金凍結前ノ狀態ニ復歸セシムヘシ
米國ハ所要ノ石油ノ對日供給ヲ約スヘシ

四米國政府ハ日支兩國ノ和平ニ關スル努力ニ支障ヲ與フルカ如キ行動ニ
出テサルヘシ

備 考

一、必要ニ應シ本取極成立セハ南部佛印駐屯中ノ日本軍ハ佛國政府ノ
諒解ヲ得テ北部佛印ニ移駐スルノ用意アルコト竝支那事變解決ス
ルカ又ハ太平洋地域ニ於ケル公正ナル平和確立ノ上ハ前記日本國
軍隊ヲ佛印ヨリ撤退スヘキコトヲ約束シ差支無シ

ニ尙必要ニ應シテハ從來ノ提案（最後案）中ニアリタル通商無差

別待遇ニ關スル規定及三國條約ノ解釋及履行ニ關スル規定ヲ追

加挿入スルモノトス

85

0411